

セキュリティ

ICTシステム環境の最適化

上司のパソコンがランサムウェアに感染！ 繁忙期にパソコンが使えなくなり現場が混乱

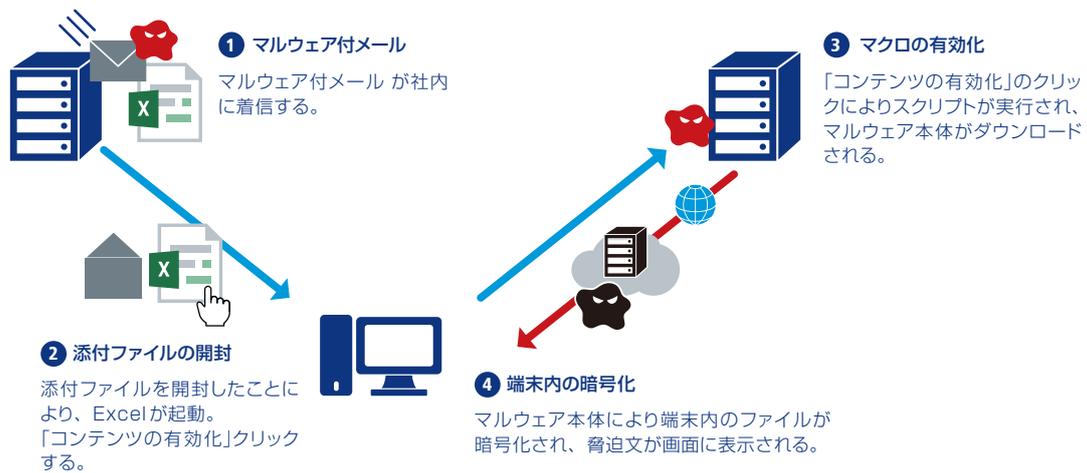
建設業界の中堅企業で営業を担当しているY.Tさんは、繁忙期でバタバタしている時期に「パソコンがおかしいから見てくれ」と上司から急に呼び出された。パソコンに保存したファイルが開けず、さらに画面上に「ファイルを元に戻すなら金銭を支払え」と要求するメッセージが表示されるという。よく話を聞いてみると、「クレジットカードの引き落としができません」というメールが届き、添付されたファイルを開いたところからパソコンがおかしくなったらしい。Y.Tさんが調べてみると、確かにファイルを開くことができなかったため、感染したパソコンを情報システム部門で調査することになった。これによ

ここに注目！

Y.Tさんの上司が感染したマルウェアは、昨今多くの企業や個人が被害を被っている「ランサムウェア」と呼ばれるものです。感染するとパソコンに保存されているファイルを勝手に暗号化し、ファイルを利用できない状態にしてしまいます。このようにファイルを“人質”にした上で、身代金を支払えと要求するというわけです。

セキュリティベンダーであるトレンドマイクロの調査によれば、2015年のランサムウェアの国内検出台数は6,700台に過ぎませんでした。2016年には65,400台と10倍近く増加しています。ある日系企業では、このランサムウェアが添付されたメールを1万人以上の従業員が受信し、そのうちの数名のユーザーが添付ファイルを開いてしまうという事件が発生してしまいました。実際にファイルが暗号化されるという事態にまで至ったパソコンは1台でしたが、そのパソコンに保存されていた数千のファイルが暗号化されるという被害を受けています。暗号化された重要なファイルを取り戻すために、犯人の要求に応じて多額の現金を支払ったという事例も少なくありません。たとえばアメリカのある病院では、ランサムウェアに感染して重要なファイルが多数暗号化されてしまったことから、数百万円を支払っています。

ランサムウェア感染の流れ

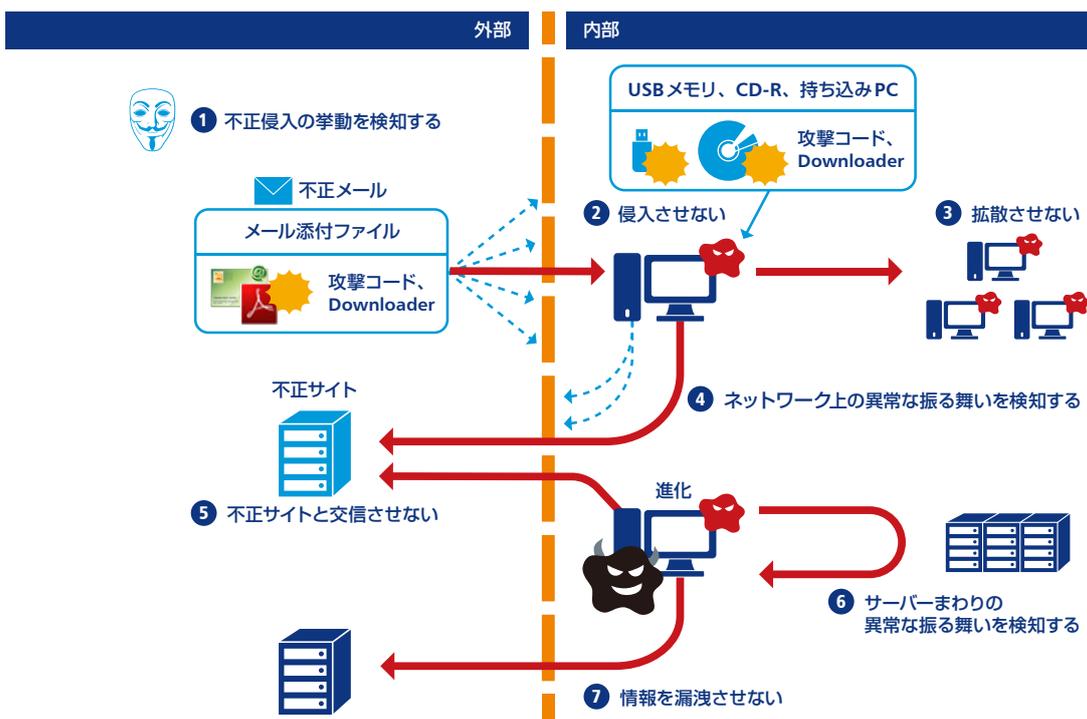


このようなマルウェアによる被害を防ぐ上で重要となるのは、ウイルス対策ソフトの適切な利用です。ただ、昨今ではウイルス対策ソフトでは検知できないマルウェアも多く、それだけでは十分な安全を確保することはできません。そこでセキュリティ対策の新たなトレンドとして広まっているのが、さまざまなポイントでセキュリティ対策や監視を実施する「多層防御」と呼ばれる考え方です。

具体的には、不正侵入の挙動の検知や感染防止、社内での拡散防止、ネットワーク上の異常な振る舞いの検知など、複数のセキュリティ対策を組み合わせます。その上で異常な通信やマルウェアの侵入などを検知した場合には迅速に対応を図り、被害を最小化するというものです。NTTコミュニケーションズでは、クラウド上のサーバーを保護する多様なセキュリティサービスを提供する「Enterprise Cloud セキュリティオプション」や、セキュリティ専門家が企業のリスクマネジメントをさまざまな形で支援する「WideAngle」、未知のマルウェアを検知して被害を最小化する「マイセキュア ビジネス」などを提供しており、マルウェアや標的型攻撃への多層防御による一元的な対策を可能にしています。

ランサムウェアだけでなく、標的型攻撃やサーバーに対する不正アクセスなど、企業を狙ったサイバー攻撃は続発しているのが現状です。少しでも不安があるのであれば、大きな被害を受ける前に対策を見直すべきでしょう。

セキュリティリスクを最小化する7つのポイント



関連サービス

Enterprise Cloud セキュリティオプション

NTTコミュニケーションズの実績のあるセキュリティサービスをクラウドと連携して利用可能

WideAngle

世界14カ国、1400名以上のセキュリティ専門家がグローバルシームレスなセキュリティ対策を実現

マイセキュア ビジネス

振る舞いを監視し、未知のマルウェアに対する最大限の防御を提供

セキュリティ業務で課題をお持ちのお客さま

フリーダイヤル/ナビダイヤル回線から便利な機能まで、お客さまニーズに合わせた最適なソリューションをご提案いたします。



0120-106107

受付 9:30 ~ 17:00
時間 (土日祝日を除く)